

News Letter of Sapporo Nature Research & Interpretation Office

調査館通信

35

2010. 01-12.
2011.01 発行
<http://www.cho.co.jp/>

制作・発行＝さっぽろ自然調査館

◆〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階

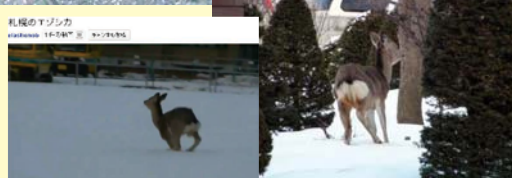
◆電話＝ 011 - (892) - 5306 ファクス＝ 011 - (892) - 5318

◆電子メール＝ chosakan@cho.co.jp

◆郵便局払込口座＝ 02740-2-58150 〔(株)さっぽろ自然調査館〕



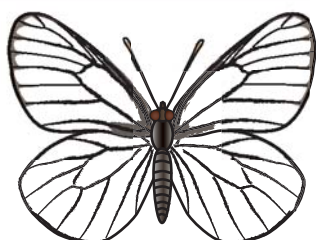
新年年賀状号



●うちにエゾシカ出没！ → 1頁

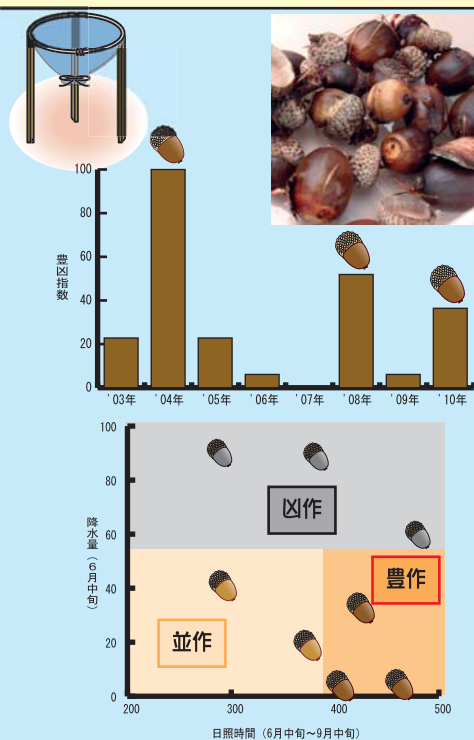


●イギリス・コッツウォルズ、フットパスの旅 → 10頁



●チョウのペバクラ製作・白黒編 → 22頁

●ウェブサイト紹介 → 22頁



●どんぐりの豊作は予想できる？ → 5頁

●今月までの活動・ニュース → 25頁・裏表紙

今月までの活動・ニュース 1-12 月

2010 年の主な活動をカレンダー順に紹介します。

1 月

●北大エゾシカ検討会 [22 日]

三井物産環境基金の助成を受けて北大植物園の富士田裕子さんらがやっている、エゾシカ研究の勉強会に参加する。昨年度森林管理局から受託した全道エゾシカ調査業務の結果を渡辺修が紹介する。もう一人の演者は松田裕之さんのところの大学院生で、洞爺湖中島のシカ集団の個体数変動パターンを数理モデルで説明する内容。食性の異なる 3 タイプの内部集団を想定することで、実際の個体数変動のパターンをよく説明できている。適合するモデル探しの変遷、苦労話なども面白かった。(に)

●エコネット・フットパス説明会 [30 日]

本文でイギリス旅行のことを書いたが、その準備・勉強の一環で、エコネットワーク主催のフットパス旅行説明会に参加した。イギリス方面への過去 8 回の旅を振り返るとともに、9 回目のプランを紹介・勧誘するものだったが、フットパス旅行の一般的なノウハウを知るにはよい機会となった。(に)

2 月

●北海道自然史研究会打ち合わせ [4 日]

調査館が事務局を担当している自然史研究会、2006 - 07 年度は地域で大会を開催したものの、08 年度は大会を開催できず、また開店休業状態になりつつあった。地域での開催は、地元の負担と参加者の少なさを考えると継続が難しいため、基本札幌開催で仕切りなおしに。札幌市博物館活動センターと北大総合博物館が交互に会場を提供してくれることになり、09 年度は 2/27 に活動センターでの開催

に(古沢さん、山崎さん、ありがとうございます ...)。この日は大会準備の打合せ。研究発表がメインとなるが、発表者の確保が心配で大学院生などにも声をかけた。何とか 10 本を予定でき、メインの講演も今回会長を退く保田さんをお願いすることになり、ひと安心。

次期会長についても副会長の川辺さん(ひがし大雪博物館)のスライド、副会長に古沢さん(札幌市博物館活動センター)、新役員に事務局活動に参加しやすい札幌近郊の志賀さん(いしかり砂丘の風資料館)、内藤さん(石狩海浜植物保護センター)、持田さん(北大総合博物館)を加えるということを検討。活動再開に向けてイメージが出来てきた。

研究報告アーカイブやポータルサイトの作成についても改めて話をし、大会で提案、助成金を申請という流れを確認する。(お)

●エゾシカ検討委員会 [10 日]

北海道森林管理局主催で第 2 回の委員会が開催される。ウチは事務局と調査の実施・解析を担当した。エゾシカによる植生への悪影響については、以前より指摘されていたことであるが、この 1-2 年は急にマスコミに取り上げられる頻度が高まり、国の機関の取組みも始まった。その一つとして、国有林内での天然林への影響を明らかにする調査が平成 21 年



度から始まった。

1年に6箇所ずつ、5年間調査するという壮大な計画で、データが蓄積されるのは良いことだが、継続してモニタリングしないと意義も薄くなる。職員が出来る簡易調査シートについても同時に開発を進めたので、そちらにも期待。09年度の調査については、委員の宇野さんや明石さんにアドバイスしてもらいながら解析・整理を進めてきたので、成果を発表していく予定。(お)

●宮島沼水鳥・湿地センターで勉強会〔7日〕

世界湿地の日になんだミニ・フォーラムに参加する。天気が悪ければ中止ということだったので(地吹雪で会場までの道が閉ざされる)、朝の吹雪を見て行くかどうか迷ったが、とりあえず行ってみる。センターは雪にうずもれていたが、30人ぐらいの人が来ていた。演者は吉田磨さん(酪農学園大学 環境システム学部)と永田修さん(北海道農業研究センター 寒地温暖化研究チーム)。美瑛周辺はもとも泥炭地で今も農地の下には大量の泥炭が眠る。泥炭は果たしてCO₂の吸収源なのか発生源なのかがテーマ。農業のやり方次第でそのどちらにもなりうるというのが、2人に共通する見解だった。専門的な内容もあったが、とても分かりやすかった。(に)

http://www.city.bibai.hokkaido.jp/miyajimanuma/23_center/23_event03.htm

●藻岩山再整備シンポジウム〔13日〕

藻岩山が再開発問題で揺れている。エルプラザの3Fホールで行なわれたシンポには約300人が集まり、市民の関心の高さが分かる。最初に、観光文化局から再整備の計画案の説明があったが、過去の市民説明会で出た議論を整理したものではなく、アリバイ作りの印象は否めない。会場も沸騰気味で、炎上寸前だった。主催者も紛糾を恐れて、当初は一般の質問や意見は受け付けなかつたつもりだったが、結局そうもいけなくなっていた。意見を

用紙に書かせていたのに、多すぎるという理由でほとんど紹介されずガス抜きにもなっていない。市のHP上で公開するという約束で収めようとしていたが、結局出たのは工事が着工されてから。しかも意見をただタイプして羅列しただけで、不誠実をさらしている。(に)

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/news2/2010-03-10.html>

●北海道自然史研究会〔27日〕

2009年度の研究発表会(大会)が、札幌市博物館活動センターで開かれた。熱心な広報が実って、大勢の参加者が集まった。会場がやや狭くて窮屈になってしまったのは残念だが、発表数も多く、盛り上がった大会だった。総会では、会費を徴収しないこと、次年度以降の大会も札幌を中心に開催すること、ウェブサイトや研究誌発行のための準備グループをつくることが承認された。次の大会は3月13日に予定されているので、北海道の自然史に関心のある人は気軽に参加してほしい。(に)

<http://www.cho.co.jp/natural-h/>



●札幌市エゾシカフォーラム〔28日〕

エルプラザで「エゾシカを知ろう」と題した博物館フォーラムが行なわれる。演者の一人として出席し、藻岩山周辺のエゾシカの越冬地についてしゃべる。ほかには宇野裕之さん、宮木雅美さん、伊吾田宏正さん。参加者は140名ほど。シカ関係の集まりは最近非常に多いが、毎回盛況である。発表はだいが持ち時間をオーバーしてしまった。エルプラザの控え室はなかなか立派。タレントでも来ることがあるのだろうか。(に)



3 月

●北海道水生昆虫研究会〔6 日〕

2 年ぶりに水生昆虫研究会に参加。参加者は 30 名ほど。発表数が少ないようだったので、「水生生物を用いた環境教育教材の製作」のタイトルで発表を申し込んでいたが、結局例年より多い 10 件の発表があり、終了したのは予定を 1 時間近く超えていた。発表内容は水生昆虫のほか、目、魚、河畔林、DNA による種の分類の話といろいろで、普段聞く機会のない話も聞いた。

自分は最後の発表で、すでに予定時間をすぎ参加者はお疲れぎみだったが、水生生物を使った封入標本づくりとハンドブック等の冊子について紹介する。封入標本づくりのコンセプトや水生生物を扱う利点や標本作りの難しさについてや、市民団体と作るローカルハンドブックについて話す。封入標本をすでに見たことのある人は多かったが、懇親会でも関心集めていた (の)。

●平岡どんぐりの森のパネル作成打合せ〔17 日〕

札幌市の平岡公園で自然観察会や森づくりの活動している市民団体「平岡どんぐりの森」から、観察会で使うパネル作成の依頼。活動拠点の平岡公園で行なう水辺の観察会で使うためのもので、リクエストを聞いて、よく見られる魚と水生昆虫 20 種を写真やイラストで紹介するパネルを作成した。

市内東部の市街地にある平岡公園は、市民には梅園として知られるが、まとまった面積のある孤立林でもあり、10 年以上

前には調査館も調査していた場所。一部に湿地を復元しているエリアがあり、水辺の生き物もかなり豊かに戻ってきている。その一方で、外来種のトノサマガエルが増え、他の生物への影響が心配されている。

ちなみに、今回のパネル制作の予算は、前田一步園の助成金を使っているそうで、これで調査館が前田一步園の助成を受けた市民団体のお仕事するのは 3 年連続となった (の)。

●北大総合博物館の博物館まつり / 北方山草総会〔20 日〕

北大で博物館まつりが開催された。まつりの企画者である大原昌宏さんから、ミュージアムカフェ「博物館を熱く語ろう～市民と学生と博物館」という企画での話題提供を頼まれる。他のパネラーは、寺林伸明さん (北海道開拓記念館)、三浦龍一さん (札幌市博物館活動センター)、岡村一美さん (サッポロミュージアム 5:01)、大石琢也さん (北大大学院)。環境調査員という立場で何かしゃべってくださいということだったので、環境調査のデータ管理の必要性和それを博物館が担う可能性についてなど、実現性抜きに話す。

<http://museum-sv.museum.hokudai.ac.jp/activity/HoUMfesta/>

夕方からは北方山草の総会に出席する。次号の会誌ではサクラソウ類を特集するので、東大の鷺谷いづみさんに執筆依頼をすることになり、交渉役に任命される。帯広の若原正博さんと久しぶりに会ってスミレ談義など楽しむ。(に)

●北海道・希少種委員会〔26 日〕

希少野生動植物指定候補種検討委員会植物部会が開かれ、委員として出席する。5 月 28 日付けで追加指定になったタカネエゾムギとエゾコウボウ (ともにイネ科) についての審議などが行なわれる。

(に)

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/siteisyu20100528.htm>

●北海道植物友の会総会・講演会〔3 日〕

毎年恒例の春の講演会。今回はいくつかの会員候補から、雨竜の佐々木さんと調査館・丹羽の講演となった。佐々木さんはとにかく湿原の写真がきれいだった。丹羽は夏に調査の手伝いで行った奥尻島の植物の紹介。友の会では樺山地方の植物目録づくりの中で奥尻も調べられているが、最新情報を紹介した。

この奥尻の話は、自然情報誌「ファウラ」28 号の特集「奥尻島へ行こう！」での植物の記事にもなっているので、興味ある人はご覧下さい。（お）

●ひがし大雪博物館・川辺さん退職祝い〔5-6 日〕

ひがし大雪博物館で30 年以上にわたって学芸員を務めてきた川辺さんが定年退職。博物館友の会の人たちがお祝いの席を設けるというので、幌加温泉へ。3 人揃って東大雪に行くのは久しぶりで、調査でよくお世話になった幌加温泉もなつかしかった。

まだ雪が多い中だったが、博物館と友の会の思い出話に花が咲いた。川辺さんには北大にきた20 年前からの長い付き合いで、いろいろなことを教わった。お疲れ様でした！であるが、研究者、自然誌研究会の会長としても、引き続き活躍していただかないといけない(笑)。（お）



●森林技術士会北海道支部会〔9 日〕

3 月に森林部門の技術士（林業）となったため、部門別技術士会に加入させていただく。年の合格者は11 名だそう。あまり縁のない分野だったので、知ってい

る人が少なかったが、道有林の方など多く、エゾシカの話などする。釧路の森林再生など手がけていることもあり、この資格を取ったが、現場・実務の色が強い世界なので、教えてもらいながら取り組まないといけない。（お）

●地域環境計画・北海道支社 10 年祝賀会〔12 日〕

東京の環境調査会社、地域環境計画さんの北海道支社が10 年を迎えたお祝いの会に呼んでいただく。主に社員が参加者で、社外からはウチと野生総研・環境指標生物が参加。久しぶりに高塚社長や逸見さんにも会う。地域さんはじめ、集まった会社は似たような仕事をしているので（ウチは規模がはるかに小さいけど...）、普段一緒に仕事をする機会はなく、どちらかというライバル。下請の仕事が減る中で、元請の仕事では完全にバッティングする場面が増えてくるが、いい意味での競争しながら、やりましよう。技術的なこと、現場のことなどは、もっと交流してやったほうがいい面も多そう。野生総研さんと話したが、実はウチや野生総研も10 年目を迎えているが何もせずに過ぎつつあり...（お）

●北海道盗掘防止ネットワーク活動報告会〔24 日〕

北大で加盟団体が集まっての報告会。講演として、北大の愛甲さんと渡辺悌二さんから登山道整備やトイレ問題について解説いただく。ネットワークとしては、テーマを盗掘問題から高山帯が抱える問題全体へ広げようと話をしているところなので、タイムリーだった。

テーマを広げるための名称変更も話し合われたが、「北海道高山植物保護ネット」に落ち着いた。以前は後ろにネットワーク委員会と付いていて、長ったらしかったので短くなりよかった。次期代表は北大の大原雅さんに了解得ているということだったが、本人不在で欠席裁判気味。

事務局は1 月の打合せで様似のアポイファンクラブに移ったが、実際の事務方

は札幌でやらないといけないので、ウチで引き受ける羽目に。今までやっていた日本山岳会の樋口さんに手伝ってもらいながら、担当する。(お)

●ゼフ卵の採集〔17日〕

チョウ屋の小高さんと干歳方面へゼフ卵採取に行く。かつて、小高さんが多くの卵を採集したスポットに案内してもらう。いかにも卵がありそうな疎なミズナラ二次林で、昔はもっと取りやすかったそうだが、今は木が成長してきて少し取り難くなっている。早速探し始めるが、なかなか見つからず、正味1時間でエゾミドリ・アイノミドリ・ジョウザンミドリの3種で合計10卵ほどしか見つからなかった。場所を変えてみるが、そこでもオオミドリ10卵ほどで、今年も卵の少ない年だった。ここ3年は卵の不作が続いているが、最近の夏場の天候不順で成虫の交尾に影響が出ているかもしれないとのこと。昔に比べて確実に卵は減っているのではと。夏には成虫が、多く飛んでいたようなので、今冬に期待(の)。

●アポイ岳再生委員会〔28～30日〕

アポイ岳再生委員会に出席する。渡辺定元会長や増沢武弘副会長らも本州から参加。29日は5合目下に設定されている試験地で現地作業をする予定だったが、強風とみぞれ混じりの大雨でとてもやれる状況ではなかった。支援センターで座学をしながら天候の回復を待ち、少し風が弱まった午後から14名で現地視察。道中、エゾシカの食痕が以前にも増して目立つようになっていた。夜は総会と宴会が行なわれる。(に)



5月

●道新自然ガイド取材で藻岩山〔4日〕

スキー場コースを登り、昼過ぎに山頂につく。このコースを使う人は少ないが、慈啓会コースから来る人は結構多く、山頂には数十人が休んでいた。ロープウェイ、山頂施設、道路はどれも閉鎖されていたが、まだ工事は始まっていない様子。山頂の展望台も普通に登れてトイレも使える。馬の背を通過して旭山記念公園方面に下るが、ところどころに残雪がある。軽登山靴を履いていて助かったが、スニーカーの人は辛そうだった。バックヤナギは満開だが、エゾエンゴサクとナニワズがちらほらでキタコブシはまだ。マルハナバチもまだほとんど飛んでいない。(に)



●春の北大キャンパス調査〔7日～〕

前年から北大キャンパス内の生物調査の仕事をしている。キャンパス内の施設整備に当たっては、これまでも遺跡調査などは行なわれていたが、自然環境への影響については十分検討されてこなかった。文科省がエコキャンパス推進事業を進めていることもあり、生物情報をデータベース化してきめ細かく対応していこうという流れになっている。春の調査では両生類の産卵状況や春植物の分布などを調査した。また、これまで北大キャン



パスの植物調査を行ってきた「花さんぽ会」のみなさんにも協力していただいている。(に)

●達古武調査スタート、再生普及委員会〔17日～〕

本年も達古武での森林再生の取組みがスタート。年最初のこの日は、苗畑の確認と地表処理予定地の確認をした。苗畑は、樹木の不作が続いてなかなか埋まらないが、10年度はどんぐりの豊作に期待。久しぶりにシラルトロ自然情報館にも立ち寄ったが、製作当時と変わらないピカピカのままだった(利用が少ないだけか...)

28日には再生普及小委員会に参加。その前に環境財団の内田さんと久保田さんが茅沼の旧川復元箇所を見に行くというので、連れて行ってもらう。ここは直線河道をふさいで、元の蛇行河道に水を流す計画で、随分時間かかったが、この冬に工事がひとまず完了したところである。自分が現地を見るのは初めてだったが、どちらの河道も幅が広いので、あまり違いを実感できない。直線河道に積んだ土のうが工事の様子を創造させるだけ。ここで再生の話するなら、いろいろと工夫が必要と思う。

小委員会の方は、今後森林再生をモデルケースに再生普及の活動をしていくという話。協議会の活動自体が話題にならなくなっているので、てこ入れということだが、うまくいくか。とりあえず達古武のイベントを連携でやれるのはありがたい。



●開拓記念館どんぐり展打ち合わせ〔19日〕

開拓記念館で8月から11月にかけて

予定している特別展「どんぐりコロコロ」の展示制作の打ち合せ。前から学芸員の堀さんから話聞いていたもので、2ヶ月前になり、本腰を。ウチは封入標本を使った展示と、生態系をあらわした大型パネルの製作を担当するが、ポスターやチラシの製作・印刷もお手伝いすることに。時間もない中で、8月はじめまでは、これでバタバタになった。(お)

6月

●日本山岳会北海道支部パトロール研修会〔4日〕

しプラザで行なわれた研修会の講師に呼ばれる。例年は佐藤謙さんがやっているが、お忙しいということで、その代理。出席者は30名弱で、男性が多い。最初に道自然環境課の坂村武さんが夕張岳のシカ対策などの話。自分は道内の高山植物の保護事例とセイヨウオオマルの話。出席者からは、盗掘とかそういうのよりもシカの影響が強い、何とかしてという話が出ていた。道に要求するようなことが多くて(シカをもっと撃てとか、自衛隊を出動させるとか)、ほとんど坂村さんが対応する。(に)

●マルハナバチ採集〔8日〕

雨竜沼湿原を愛する会から実物標本の制作を頼まれていたため、採集に出かける。はじめ手稲山に行くがエゾオオマルハナバチ以外は少なく、小樽などにも足を伸ばす。マルハナバチが全般に少ない春だった。(に)

●ゼフ幼虫の採集〔12日〕

小高さんと今度はゼフの幼虫採集。小高さんが、開拓記念館の堀さんからどんぐりの特別展で使う幼虫の標本採集を頼まれていて、同行させてもらう。川沿いに隣接したツナラ二次林に行き、林道を歩きながら、道沿いの木の葉や枝についている幼虫を探していく。幼虫は、種類によって葉にいるものは緑色系、枝や幹

にいるものは茶色系で見事に擬態している。この日のメインターゲットは、ウラナミアカシジミで、コナラの主脈を切って巣を作るのが特徴。小高さんにポイントを教えてもらいつつ探していくが、巣自体も少ないし、あっても空だったりする。以前は幼虫がヨ 榎のオーダーでとれたそうだが、結局 1 匹のみ。その他含めてもオオミドリのみ。オオミドリは低い枝の枯れた葉に擬態しているが、これが一番探しやすいそう。初めての幼虫採集だったが、探すのが難しいというよくない印象を持ってしまった。今年は卵が少なく、尚更なのかもしれないが、こういう年が増えているのが確かなようなので、ゼフ探しは将来簡単でなくなる時代が来るかも (の)。

●豊平公園 [18 日]

豊平公園は市内でも歴史ある公園の一つで、立派な木もたくさん生えている。公園管理のための植物調査が毎年行なわれていて、そのお手伝いとして参加する。(に)

●嵯山調査 [28 ~ 29 日]

入山規制が続く嵯山に、希少植物調査のため行く。今回は希少植物の遺伝子構造を調査する東北大の研究チームも同行する。天候には恵まれたが、暑くて 2 日続きの調査はなかなか厳しかった。(に)



樹齢 80 年を超えるカラマツ人工林や道有林の広葉樹原生保護林「太古の森」などを回った。マイマイガの大発生が続いていて、カラマツの成長にも影響しているとのことだった。(に)

●北大キャンパス調査 [6 日~]

春の調査に続いて、初夏~夏の調査を行なう。両生類、植物に加えて、昆虫の調査も行なう。昆虫調査の対象は歩行性昆虫とマルハナバチである。大型のオサムシ類は確認できず、孤立化でほぼ消滅していると考えられた。一方、マルハナバチ相は市街地とは思えないほど豊かだった。キャンパス内に点在する広々とした草地がマルハナバチを養っているようである。(に)

●ひがし大雪ガイド養成講座 [10 ~ 11 日]

ひがし大雪博物館の恒例行事に今回も講師役で参加する。今回は「花と昆虫」の応用編で、簡単な講義の後、上士幌町内の数箇所でセイヨウオオマルハナバチさがしをする。今回、在来マルハナバチは多数観察できたが、セイヨウは見つからなかった。町の中心部や農村部はすっかりセイヨウに席巻されてしまっているが、大雪山国立公園内ではこのときまだ見つかっていなかった。しかし後日、十勝三股でセイヨウが見つかったということである。(に)



7 月

●三井物産フォレスト社員研修 [1 日]

三井物産フォレストの社員研修に呼ばれる。過去 2 回は胆振地方にある社有林で行なわれていたが、今回は十勝地方で行なわれる。あいにくの天気だったが、

●自然史研究会打ち合わせ [16 日]

春に申請していた助成金が二つあたり(道新野生生物基金、秋山財団基金)、それを使った研究報告アーカイブ作りについて打ち合せ(役員会)。後日には札幌に来る機会に合わせて、川辺会長とも打ち合せ。

とりあえず、「ひがし大雪博物館研究報告」のデジタル化とウェブ掲載を目指して進めることにする。今年度の研究大会については、3月に札幌で行なわれる生態学会全国大会に合わせての開催ということで、日程や会場を調整する。（お）

●夕張岳希少植物調査〔20～21日〕

道的环境研や自然保護課の職員らとともに夕張岳の希少植物調査に行く。夕張岳に生育する5種の指定希少植物の現況を把握することが目的である。少しずつ調査対象種が増え、おまけにエゾシカ対策事業も始まるということで、2日かけての調査となる。（に）



●セイヨウオオマルハナバチ調査、雨竜沼湿原〔25日〕

雨竜沼を愛する会が主催する、セイヨウオオマルハナバチの調査・捕獲と観察会を兼ねた行事に参加する。雨竜沼は北海道を代表する自然だが、行くのはこれが初めて。幸いセイヨウは見つからなかったが、在来マルハナバチについて観察しながら歩いていく。雨竜沼はなるほど素晴らしい湿原景観だと思った。（に）



●大雪日高現地検討会〔27～28日〕

森林管理局が行なう大雪山・日高山脈

森林生態系保護地域等設定委員会の現地視察が行われる。委員や局の職員合わせて20名近くが参加し、展之と丹羽が事務局として参加した。設定案で新たに保護林の拡充を検討している地域を視察する行程だったが、初日はあいにくの天候で、霧がかかり視界が悪いうえ、時折豪雨が降り、視察もままならない最悪のコンディションだった。2日目も天気が悪く、札内川ダムでは視察中に局所的な豪雨に見舞われ慌ててバスへ戻るほどだった。ただでさえ、バスでの移動時間が長い上に、悪天候で、視察もままならない状況で、特に札幌から移動していた方々は、お疲れになったのではないだろうか。（の）



8月

●宮の丘幼稚園・先生研修〔2日〕

宮の丘幼稚園は、札幌の市街地に近いものの山に接する場所にあり、園内には小川も流れる自然に恵まれた環境にある。冬になると園内にエゾシカもやってくるそう。高野ランドスケープでは、幼稚園の園舎建て替えから関わり、川の遊び場づくりなどのワークショップを行っていて、今回は、その一環で生き物セミナーの依頼を高野さんから受けて行った。園長先生は、もっと自然を生かした活動をしていきたいとのことで、先生たちに園内の生き物を知ってもらい、子どもたちにも教えられようになればとのことだった。生き物でも特に子どもが興味ある虫をリクエストされたので、川虫やオサムシなどトラップ採集で観察・体験してもらった。



当日は、先生 10 名のほか高野ランドスケープの関係者を合わせて 30 名近くが参加。幼稚園の先生だけに若い女性が多い。室内で説明した後、野外へ行き、最初に沢で川虫採集しながら観察。一度、整備された沢だが、エルモンヒラタカゲロウやトビモンエグリトビケラなどが見られ、川虫がすめる環境がかなり戻ってきているようだ。これなら、観察に適した季節なら、もっと川虫もいろいろ見られそう。敷地内にあることや、沢の水量も少なく溺れる心配もないので、園児が観察しやすい環境である。

次に、森でオサムシ類の観察。事前に森林と草地にピットフォールトラップを設置しておき、当日回収した。オサムシの観察に加え、環境によって種類が異なることや、同じ森林でもササ刈した場所では数が極端に少ないことを体験してもらった。利用しやすい森づくりの一環で、ササ刈りを行なうことも多いが、そのことで困る生き物もいる一例である。

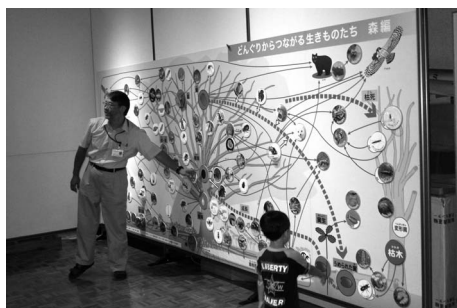
今回は、参加した先生みな初めての体験で新鮮な世界だった様子。特に、こんな小川でも生き物がいることが驚きで、川虫探しに夢中だった (の)。

●「どんぐり展」開始〔6 日〕

開拓記念館の特別展「どんぐりコロコロ」がスタート。パネルの設置などは、前々実までに仕上げるバタバタだったが、何とか完成。ミズナラを中心とした生き物のつながりを見せる大パネル(横 4.5 メートル)と、川を通じて海までの生き物のつながりを見せるパネル(横 2.7 メートル)を製作した。ペーパークラフトをつけたり、顔出しパネル(生き物のつなが

りに自分も参加!)をつけたりと、遊びの要素も入れてみた。

特別展は、展示・図録ともに力作で、周囲の評判も非常に良かった。11 月までの来館者は 2 万弱だったそう。生物学界の堀&水島さんはお疲れ様です。(お)



●室蘭岳登山〔13 日〕

室蘭岳に登るのは初めてだったが、お手軽なハイキングコースである。見晴らしがよく、室蘭の街や太平洋がよく見える。日当たりのよい草原にオオノアザミがよく咲いていてエゾオオマルハナバチにモテモテだった。温帯の植物で低地にしかない植物と思っていたが、この山では稜線近くまで出現している。(に)

●高山植物保護ネット打ち合わせ〔25 日〕

保護ネットの札幌事務局も引き受けたので、様似のアボイファンクラブの人たちが札幌へ来るときに合わせて何回か打合せ。この日は 11 月に予定している市民フォーラムについて確認。会場と講演者(礼文のそまださん、環境研の宇野さん)の最終調整、地域の報告者の選定などの打合せ。大原新会長には忙しい中、協力いただいた。(お)

●宮の丘幼稚園・ネイチャークラブ〔27日〕

宮の丘幼稚園の園長先生から、8月のネイチャークラブを依頼される。ネイチャークラブは月1回、卒業園児を中心とした小学生を対象に、乗馬や木工づくりなどの活動をしており、急遽27日にセミナーでやったような内容でお願いできないかとの話で、引き受ける。

参加した子どもは36人で男女半々、ほとんどが低学年。最初に、室内で昆虫のスライドを見せながら話するが、虫に詳しい子が、虫の写真が映るたびに名前を言い当てようとしてるのが良かった。野外に出て、小川で川虫、森でオサムシ類の観察。今回のピットフォールトラップは前日にしかけ、コップに何も入れずに生きた状態を観察してもらうことにした。

川虫の観察では、30名以上もいると、小川も芋洗状態になってしまっていたが、子どもたちはみな熱心に川虫を探していた。オサムシのピットフォールトラップは、1日でも結構虫は入っていた。

川虫とオサムシを比べると、川虫は自分で探して捕まえるし、姿形も気にならないので、特に好評のよう。オサムシは、トラップ回収するだけで、コップに黒い虫がいっぱい入っている姿に抵抗感を感じる（の）。

●小樽野の花愛護会の観察会〔28日〕

小樽で活動している市民グループの観察会に参加する。当初は7/24の予定だったが雨で延期になっていた。ふだんから市内各地でフロウ調査をしたり、標本を作成して博物館に納めたりといった活動



を地道に続けている。今回は10人くらいの参加者とともに、朝里川沿いの斜面林や住宅地、雪捨て場などを回る。雪捨て場ではクガイソウなど季節外れの花が咲いていてきれいだった。（に）

●Air' G 収録〔30日〕

日曜 18:30～18:55 にほっかいどう宝島というラジオ番組があるのをご存知だろうか（私は知りませんでした）。北海道の自然や文化、歴史の魅力を紹介するという企画で、毎回ゲストに語ってもらうつくりになっている。北大や博物館のスタッフがよく登場する。その番組でアッケシソウ（サンゴソウ）のことを取り上げるので出演してほしいと頼まれる。アッケシソウに特別な思い入れはないが、以前に知床博物館の研究報告にアッケシソウの調査報告を書いたことがあり、それをネットでたまたま見たらしい。この日スタジオに行って収録する。

<http://www.air-g.co.jp/takarajima/>

●十勝カラマツ林見学〔30日〕

アークスの孫田さんと一緒に十勝の高齢級のカラマツ人工林を見に行く。十勝森林質に案内いただいて、石井山林などの民有林と、道有林を見せてもらう。釧路の森林再生でも、カラマツの長伐期施業（伐採予定時期を過ぎても伐らずに成長させてから収穫すること）が話題になっているために実例を見学させてもらった。

樹齢が80年を超えて、樹高も30メートルを超える立派なものが見られた。材質も良く、腐ったりしてこないようだ。ただまだ事例が少なく、今あるものとはとりあえず様子見が多いよう。釧路では、とてもこんなに立派にはなりそうもなく、なかなか難しい。（お）

9月

●大雪山調査①表大雪〔1日～3日〕

大雪山系の登山道の荒廃状況やエゾシカの出没状況などを調査する。今回は黒

岳～白雲岳を縦走したが、表大雪に登るのは15年以上ぶり。花はさびしかったが、ウラシマツツジの紅葉が美しかった。赤岳の登山道は昔から侵食が進んでいたが、一層ひどいことになっていて痛々しかった。エゾシカについては黒岳の下と銀泉台周辺で局所的に目立っていた。白雲岳では梅沢俊さんとばったり出会う。(に)



●達古武体験会〔9,11日〕

すでに7年目に突入した達古武の調査体験会、今回は今までと違う対象での実施となった。9日は教員研修会の環境教育の枠での実施で教員8名が参加。学校の周りで実際にやってもらえる調査をということで、ネズミ・地表性甲虫・水生昆虫／魚のしかけわなを体験してもらった。盛り沢山にしてしまったが、一通り実践。ネズミは全くかからず、イイズナがかかり、ケージに入れて観察することが出来た。



11日は釧路市生涯学習センターとの共催で、子ども体験隊のメンバーの小学生たちを対象に実施。目玉は、ネズミの生け捕りと実験だったが、これも不発。今年は去年の大発生の反動なのか、野ネズミが非常に少ないらしく、全くとれないという残念な結果になってしまった。子ども達もがっかり。こういう結果もある

のが「自然の調査」と説明はするものの、子ども達には見せたかった... (お)



●日本植生学会〔12日〕

植生学会第15回大会が札幌のかでる2・7で開催されたので、発表を聞きに行く。自然再生ものが目立っていた。昼休みには向かいの植物園を散策する。(に)

●大雪山調査②石狩岳〔13～16日〕

14～15日に石狩岳連峰(ユニ石狩～石狩岳)を歩く。天気はだいたい晴れ。朝晩は冷えるが、日中は夏山のような感じだった。表大雪とは異なり、石狩岳の登山道はほとんど荒れている場所がない。入山者が圧倒的に少ない印象で、登山名簿を見ると平日は10名余り、土日は50名ぐらいである。シュナイダーコースから石狩岳の区間だけは、それなりに登山者がいて10名ぐらいに出会った。シカに関しては、ユニ石狩周辺ではユニ石狩沢、ブヨ沢周辺で食痕が目立つ。ブヨ沢天場に夜、大きなメスジカが現れ、ほぼ一晩中テントの周りで採餌をしていた。また、十国峠周辺はクマの気配が濃厚である。

下山した翌日は然別湖周辺(白雲山～天望山～東雲湖)を歩く。標高は低いが、ガスまたは曇り空で寒い。然別周辺は全



般的にシカの痕跡が見つかるが、それほど顕著な影響は見られない。今のところは少数のシカが利用していると思われる。(に)

●応用生態工学会〔22日〕

応用生態工学会全国大会が札幌で開催。初めての札幌開催ということで発表聴きに行く。この学会は、河川関係を主体に扱っており、河川生物の生態や生息環境が研究的なものが多い。学会名から連想させる環境を施工して、生息環境を改善させるようなタイプの発表は意外と少ない。また、GLMなどモデル化して因果関係探る解析的なものも多く見られた。

翌日は公開シンポジウム。テーマは、「流域スケールでの生態系サービスの最大化～景観要素・物質循環・ハビタットを総合的に考える～」と壮大なタイトル。アメリカからパネラーを招いてのカリフォルニアのデルタ地帯の再生事業についての話があったほか、日本の研究者から3名のパネラーが、北海道の森林の物質循環、木曽川での攪乱と生物多様性、オホーツク海での鉄の物質循環とそれぞれ興味深い話。カリフォルニアの事例では、今後の再生事業に4兆円、調査モニタリングに2兆円をかけて実施していく予定だそうで、日本とは規模が違う。森林の物質循環の話では、ササも更新阻害の元凶にされるが、炭素固定や窒素吸収で貢献度は高いそう。また、木曽川に限らず、河床低下・樹林化は全国河川の共通の問題で、ダムの堆砂の下流への流出や高水敷切り下げなどの一時的にしのご対策がなく、根本的な解決策がないのが現状のよう。これだけ大きなスケールだと技術的にどうにかするというのは無理があり、こうした対処療法が続くそう(の)。

●大雪山調査③富良野岳〔25～26日〕

十勝岳温泉から富良野岳、上ホロカメットク山と歩き、エゾシカ調査を行なう。表大雪や東大雪よりシカの痕跡は多くないが、雪田周辺にはシカ道がときどき見

つかる。富良野岳は大学2年生以来で、景色もそのとき泊まった上ホロカの避難小屋も懐かしかった。(に)

●生物多様性フォーラム〔25日〕

北海道が主催するフォーラムが札幌ファクトリーであったので、参加。企業ブースでは雪印種苗が種苗や釧路での組みの紹介をするので、パネルなど貸し出し。封入標本も展示して、どんぐりを植える体験会などやっていた。

講演の方は、ナチュラリーの大橋さんが多様性の解説を分かりやすく。ファウラの表紙をいっぱい並べたブースもあり。

2010年は国際多様性年で名古屋でcop10が開かれたこともあり、関連イベントがたくさんあった。しかし、どうも役所が義務的にやっている感も強く、今一つ盛り上がりにかけていたのが正直なところ。自分達にもっとも近いテーマの一つ名だけに残念だった。(お)

<http://www.tayousei.info/>



10月

●夕張岳シカ柵撤収作業〔10月7～8日〕

8月末に設置されたシカ柵の撤収作業に参加する。今回はあくまで現地での設置作業や柵の強度をみるための試験ということで、植物の保護効果は最初から期待されていない。ただ、設置や撤収の作業で植物を傷めたり斜面を崩したりしてしまうことが懸念されており、その確認作業を担当する。数日前に降った雪は消えていたが、寒さに震えての作業だった。(に)

●滝川市「秋の自然観察会 実やたねをあつめよう」〔9日〕

美術自然史館の観察会に講師で出かける。参加者は9名とちょっと少ない。3連休で社会教育関係（スポーツなど）の行事が多く、子供の取り合いになっているようだ。動きやすい人数だし、中には毎年来てくれる子もいてうれしい。午前中は市の学校林で観察会兼植物採集をする。午後は採集した木の実や草の実を菓子箱に貼り付けて標本箱を作る。標本箱づくりは子供よりもお母さん方が熱心である。（に）



●エゾシカシンポジウム〔11日〕

森林管理局主催のシンポジウムがエルプラザで開かれたので参加。こちらもcop10関連イベント。国有林での調査・対策が始まったことを紹介するものだが、参加者も多くにぎわっていた。基調講演は梶さん（農工大）。エゾシカ肉の試食なども行なわれた。（お）

●サイエンスカフェ「地球の調べ方」〔14日〕

北大地球科学研究院の連続イベント「地球の調べ方」が札幌の紀伊国屋1階で3日連続であり、その中日の講師として参加。大原雅さんにリクエストいただいて、北大の教官でないのに異色の参加になっ



た。季節の話題がよいということで、どんぐりの話を導入に、釧路での森林再生の話や、封入標本を使った展示づくりの話をした。封入標本もたくさん持ち込んだので、実物見て楽しんでもらえたかと思う。後日のレポートでは、いろいろな世代の人たちが参加してくれていたそうだ。（お）

<http://shirabekata.cocolog-nifty.com/>

●達古武体験会〔16日〕

達古武での調査体験会。今年唯一の一般向けの行事となった。参加者は10名（うち子ども3名）。行事中は曇りで一時弱い雨も降っていた。内容は、この時期恒例メニューで、午前中はシードトラップ回収、タネ取りと苗取り。午後はタネのカウントとタネまき、仮植え作業など。しかし、同じ内容でやっても、前年と同じ結果にはならないので、自然は飽きない。今年のどんぐりの出来はは去年の凶作から一転して豊作で、大きさもこれまでにないほど大きい立派などんぐりだった。逆にホオノキなど液果は全く取れず。前日までの雨の影響で、シードトラップの回収物が濡れていて、ダケカンバを確認するのが難しい状況のため、カウントはミズナラとカエデのみ行なったが、カウントの醍醐味を味わえずものたらなかったかも。どんぐりはポットで持ち帰ってもらい、里親として1年育ててもらうことに（の）。

●西野・野ネズミ小屋移設〔17日・23日〕

以前、西野のフォレストーズクラブが森に野ネズミ小屋を設置するのをお手伝いしたが、今回それを撤去することになったと連絡が入る。引き取り先を探していると言う事で、仲介して、近くにある宮の丘幼稚園に貰い受けてもらうことになった。この日は、撤去作業を手伝いに西野西公園へ行き、フォレストーズクラブの皆さんと久しぶりに再会。さっそく、小屋を公園から空地へ仮移設するため作業開始。なかなか重い小屋だったが、



5人でなんとかトラックに載せて、空き地へ移動させる。

翌週、園長と職員に取りにきてもらい、幼稚園まで一緒に同行。小屋の仕組みと設置場所について説明して引き渡す。雪降る前には設置するとのこと。急な斜面を登って小屋を移動させる必要があり男手があっても大変そうだ。幼稚園では、リス小屋も作るなど、生き物関係には積極的なので、うまく活用されることを願う(の)。

11月

●アポイ岳再生支援事業〔4～5日〕

高山植物が減少しているアポイ岳では、ファンクラブや地元自治体、研究者らによって再生の試みが進められている。これをサポートする目的で、今年度から環境省の「アポイ岳自然再生活動支援業務」が始まり、うちが受注することになった。これを受け、地元挨拶で様似役場や教委などを回る。

翌日は地元学芸員の田中正人さんにも付き合ってもらい、アポイ岳5台目の再生実験地に行き、簡易測量などを行なう。下山後、田中さんにビジターセンターを開けてもらい、所蔵の様似町史など関係



資料を借りる。様似町ではジオパーク指定を受けて、アポイ岳や町のあちこちに解説板が取り付けられていた。(に)

●森林学会北海道支部会〔9日〕

森林学会の支部会で、達古武でやっていた生物指標を用いた二次林評価の話を発表。久しぶりのポスター発表だったが、聞きにくる人も耐えなかったのでコアタイム1時間はすぐに過ぎてしまった。ネズミの生態について逆にいろいろ勉強になったり、解析方法についての指摘をもらうなど、いろいろ課題をもらった発表だった(の)。

●北海道高山植物保護ネット・市民フォーラム〔27日〕

昨年度まで10年間、「北海道盗掘防止ネットワーク」として活動してきたが、高山帯には盗掘以外にもさまざまな環境問題があり、それらについても取り組んでいかなければという認識から改称し、その第一回目のフォーラムが北大で行なわれた。最初に、写真家の杉田美野里さんから、礼文島の現状や取り組みの紹介があった。続いて、宇野裕之さん(道総研環境科学研究センター)から、エゾシカの現状と今後心配される高山帯での影響について講演してもらう。そのほか、新しい企画として北大の大学院生に植物研究の紹介をしてもらう。170名の参加があった。(に)



12月

●植物友の会講演会〔4日〕

今回の講演会は、会員シリーズで、久

しぶり参加の開拓記念館水島さん。サハリン北部の先住民達の暮らしと植物のかかりについて紹介いただいた。コケモモやガンコウラン食べまくりの生活、ちょっと楽しそう (お)

●北方山草会・忘年会〔11 日〕

北方山草会の忘年会兼、運営委員会に出席する。会長の野坂志朗さんの挨拶に続き、編集長の五十嵐博さんから次号会誌 (28 号) の編集作業の進捗状況の報告があった。また、29 号の小特集のテーマを「離島の植物」とすることが提案された。
(に)

●釧路湿原自然再生協議会〔14 日〕

第 15 回の再生協議会が開催され、久々に参加した。今まで会長だった新庄さんに代わり、北大の中村太士さんが会長となる。これを機会に協議会や小委員会を活性化させようと、事前に中村さんと相談して 4 つの提案を行なった。行政機関がただ事業報告する場で、地域の参加の意味合いが薄れつつあるのを改善しようということのだが、どうなるやら。(お)

■ 3 月に予定されている生態学会 (全国大会)。久しぶりの北海道開催なので、調査館でもいろいろ出ます。機会がありましたら、見てみてください。

日本生態学会第 58 回大会 <http://www.esj.ne.jp/meeting/58/index.html>

札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1)

3 月 8 日 (火) ~ 3 月 12 日 (土) ※ 一般講演は 9 ~ 11 日

■一般講演 (ポスター)

○知床半島におけるエゾシカによる森林植生への影響の評価と推移予測 * 渡辺修 (さっぽろ自然調査館), 石川幸男 (専修大学短大), 荻原 裕 (北海道森林管理局), 三宅悠介 (環境省釧路自然環境事務所)

○エゾシカ高密度生息域における樹木・林床植生への影響の指標化 * 丹羽真一, 渡辺修 (さっぽろ自然調査館), 明石信廣 (道総研林試), 宇野裕之 (道総研環境研), 荻原 裕 (北海道森林管理局)

○地表性昆虫を用いた森林環境の評価 ― 一種組成と優占種現存量を用いた北海道の低地二次林の評価 ― * 渡辺展之, 渡辺修 (さっぽろ自然調査館), 堀 繁久 (北海道開拓記念館), 柳澤 暁 (環境省釧路自然環境事務所)

■自由集会

○北海道の自然史研究の現場はどうなっているか? 北海道自然史研究会の取り組みと生態学
企画者: 持田 誠・渡辺 修 (北海道自然史研究会)

3 月 8 日 17:00 - 19:00

■企画集会

○博物館の生態学 ― 生物多様性保全のシンクタンクを目指して ―

企画者: 井上雅仁 (島根県立三瓶自然館)・橋本佳延 (兵庫県立人と自然の博物館)

3 月 9 日 9:30-11:30

生物多様性関連保全施策において地域の小規模博物館・研究者に期待される役割 ― 北海道における現状と可能性 ― 渡辺修 (さっぽろ自然調査館)



宮島沼・フォーラム(2月)



札幌・自然史研究会(2月)



ひがし大雪・エゾシカ(4月)



様似・再生委員会(4月)



様似・再生試験地(4月)



北大・沢の周辺(5月)



日野間邸のエンレイソウ(5月)



茅沼・旧川復元工事(5月)



達古武・ダケカンバ苗(6月)



定山溪・アカマルハナバチ(6月)



達古武・母樹林調査(6月)



北大・エソトラマルハナバチ(6月)



オオミドリシジミ幼虫(6月)



札幌・豊平公園調査区(6月)



岨山・ウスユキソウ調査(6月)



上士幌・エゾマルハナバチ(7月)



札幌・宮丘幼稚園(7月)



川で遊ぶ園児達(7月)



北大・ホルスタイン(6月)



夕張岳・希少種調査区(7月)



雨龍沼・湿原と川(7月)



雨龍沼・マルハナ観察会(7月)



どんぐり展・展示製作(8月)



どんぐり展・封入標本(8月)



北大・セイヨウとオオハongoン(8月)



小樽・キクニガナ(8月)



十勝・高齢級カラマツ林(8月)



大雪山・黒岳周辺(9月)



達古武・イイズナ(9月)



達古武・子ども体験隊(9月)



音更山から石狩岳(9月)



然別湖(9月)



安政火口と十勝岳(9月)



多様性フォーラム(9月)



夕張岳・シカ防止電気牧柵(10月)



滝川・標本箱づくり(10月)



札幌・地球の調べ方(10月)



達古武・苗とタネ集め(11月)



札幌・ネズミハウス移設(10月)



アポイ岳・再生試験地(11月)